

公明党土浦市議団

(仮称)土浦スマートインターチェンジ

整備に関する要望書提出

および行政視察

報告書

令和6年3月27日（水）

公明党土浦市議団

平石勝司 吉田千鶴子 目黒英一 根本法子

要望先 東京都千代田区霞が関2-1-3 国土交通省
日時 令和6年3月27日(水) 13:30~13:45
面会先 国土交通省 丹羽克彦道路局長
出席者 安藤真理子土浦市長 五十嵐立青つくば市長
島岡広明土浦市議会議員 五頭泰誠つくば市議会議員
国光文乃衆議院議員 竹内真二参議院議員
八島功男茨城県議会議員 田村央茨城県土木部長
平石勝司土浦市議会議員 吉田千鶴子土浦市議会議員
目黒英一土浦市議会議員 根本法子土浦市議会議員
小野泰宏つくば市議会議員 浜中勝美つくば市議会議員
片山壮二土浦市副市長
土浦市職員 つくば市職員 茨城県職員

要望内容 (仮称)土浦スマート IC の令和6年度新規事業化 ※詳細については別紙参照



道路局長へ要望書提出

視 察 先 東京おもちゃ美術館 東京都新宿区四谷 4-20 四谷ひろば内

視 察 日 令和6年3月27日（水） 14:30～15:20

視察内容 東京おもちゃ美術館の取組内容について

視察目的 2008年、廃校になった小学校跡地にオープンし、子育て世代を中心に連日多くの来館者でにぎわい、今では全国12館に広がっている。本市における廃校跡地利活用、中心市街地の子育て支援施設など、今後の子育て政策に参考にする。

出 席 者 NPO 法人芸術と遊び創造協会／東京おもちゃ美術館 法人部 今井 泰子 様

東京おもちゃ美術館の取り組みについて

東京おもちゃ美術館は、新宿区四谷第四小学校が2008年廃校になり、地元住民が運営することを条件に旧校舎を残すことになり、地元住民から誘致され中野区から移転し同年に開館した。

東京おもちゃ美術館のコンセプトは、ふれて遊べる体験型のミュージアムとして、1階から3階まで、教室をテーマごとに分けている。国内はもとより世界中からセレクトしたおもちゃを展示し、おもちゃ学芸員やボランティアの方が遊び方を教えたり、多世代型の交流の場を目的にしている。

「おもちゃこうぼう」「ゲームのへや」「おもちゃのまち あか」「おもちゃのまち きいろ」「いとこのや」「おもちゃのもり」「赤ちゃん木育ひろば」「きかくてんじしつ」「グッドトイてんじしつ」「ミュージアムショップ Apt」。

また、寄付金を募り、一万円以上の寄付をした方は「一口館長」として、名前を刻印した積み木を設置している。

開館時間 10時～16時

休館日 木曜日

入館料 大人 1,300 円
1,100 円※

子ども 1,000 円
800 円※

※はオンラインチケット料金

平日半年パスポート

大人 3,900 円、子ども 2,900 円



主な質疑応答について

Q 利用人数はどのくらいか。

A 平日で約300人。週末や人が多い時には、1日700人ほどが利用している。

Q 利用者は地元の人か、リピーター率、どのくらいの頻度で来館しているか。

A 地元をはじめ、都内から来ている。ほとんどがリピーターで、半年パスポートを購入して、週1回くらいの頻度で来館する人が多い。

Q 全国にどのくらいあるのか。直営で運営しているのか。

A 全国に12館に広がり、直営は東京、福岡、沖縄の3館のみ。その他は、自治体で運営していたり、地元NPOなどが運営している。道の駅や商業施設に入っているなど様々な形態をとっている。

Q スタッフはどのような方がいるのか。

A スタッフは、全てボランティア。はじめに、おもちゃインストラクターの養成講座を受講し学芸員として、働く。現役世代をはじめ高齢者など年齢は幅広く、保育士の資格を持っている方もいる。シフト制で回している。



所感

【平石】

今回、初めておもちゃ美術館を視察させていただき、まず驚いたのが、建物入り口にベビーカーが所狭しと並べられていたことである。館内に入るとどの教室も子どもが自由に元気に遊んでいる姿が印象的である。本市においても、廃校の跡地利活用は難しく、現在2校が企業の研修施設として稼働している。さらに、中心市街地に子育て支援施設の計画があるが、今回視察をさせていただいた「おもちゃ美術館」は集客力もあり、多世代型の交流の場としてとても魅力的な施設である。市の直営で運営するのかNPOなど指定管理者に運営を委ねるのかなど管理運営方法なども含め、今後は検討してもいいのではないかと考える。

【吉田】

「東京おもちゃ美術館」は四谷ひろば内の3施設の一つとして、認定NPO法人芸術と遊び創造協会が運営しています。東京おもちゃ美術館は、昭和10年に建てられた歴史的建築遺産でもある、旧四谷小学校の校舎を利用しています。

初代館長の多田信作氏は「自分たちのまわりをより美しく、より正しく、より深く見つめる心と力をもった子どもたちに育って欲しい。」との願いをこめ、この美術館をつくられています。2023までに全国12館が創設され、運営には「おもちゃ学芸員、一口館長」等、地域とファンが支えています。

東京おもちゃ美術館に入ると、まず木のおもちゃがふんだんに使われているぬくもりを感じます。日本の伝統おもちゃや、世界各国のおもちゃがいっぱいです。見たり遊んだり、おもちゃ作りを体験したり、赤ちゃんからシニアまで楽しめる美術館です。視察当日も多くの親子連れや3世代で思い思いに楽しんでもらいました。1日600~700人ほどの方々がお越しになるとお伺いいたしました。また、おもちゃインストラクターの養成講座を開設し、終了後学芸員として遊び方の指導をしています。本市でも将来にはばたく子どもたちのための施設として大いに参考となるものと考えます。

【目黒】

東京おもちゃ美術館は旧四谷第四小学校・幼稚園の跡地を活用し、認定NPO法人芸術と遊び創造協会が運営しております。平日の昼間の視察でしたが、春休みという事もあり、多くの親子連れで賑わっておりました。学校の跡地をうまく活用し、各教室にテーマごとの、おもちゃが展示されておりました。木のぬくもりを感じるおもちゃをはじめ、世界各国の貴重なおもちゃ、単純だけど難しいゲームのおもちゃ等、店舗では見る事のない、珍しいおもちゃが沢山ありました。特別教室を活用したスペースでは、工作教室や

0~2歳くらいの小さな子供が遊べるスペースなど、工夫と配慮を感じました。館内は子ども

たちの歓声と笑い声につつまれており、おもちゃで楽しく遊んでいる、子どもたちの笑顔にはこちらも笑顔になってしまいます。

博物館内のおもちゃは「健全なおもちゃ」「ロングセラーおもちゃ」「遊び・コミュニケーション尊重おもちゃ」の3つの方針と「美しい色と形」「心地よい音」「感触のよさ」「動きのバリエーション」「適度な大きさと重さ」「丈夫さと壊れにくさ」の6つのポイントを選考基準にして選ばれております。選考には各分野の専門家の他、おもちゃコンサルタントが携わっております。また、おもちゃコンサルタントはボランティアスタッフとして博物館の運営にも携わっており、視察の際にも親切に説明・対応していただきました。

今回の視察を機におもちゃについて勉強をしようと思いました。

【根本】

今回、「東京子ども美術館」を視察させていただきました。戦前に建てられた旧校舎を活用しており、階段や、所々に旧校舎の跡が垣間見えるリノベーションに、旧校舎への思いを感じました。そして、そこでは木の温もりを感じられるおもちゃをはじめ、デザイン性の高いヨーロッパのおもちゃを実際に手にとって遊ぶことができます。

近くにはおもちゃ学芸員やボランティアの方がいるので、遊び方を教えてもらうこともできます。当日も、たくさんの子どもたちが目をキラキラさせ夢中で遊ぶ姿が多くみられました。また、一緒に来たシニア世代もお孫さんと楽しんでいる姿が見られました。小さなお子さんを連れのお母さんたちは、ひとつの部屋で子どもを遊ばせながら、同世代のお母さん同士、楽しそうに笑顔で話している姿に、こちらまで笑顔になりました。少子化が進む中、お母さん同士のコミュニケーションが取りづらい昨今。このような場所はとても貴重だと思います。本市でも子育て支援施設の計画がありますが、とても参考になると考えます。

視 察 先 四谷ひろば 東京都新宿区四谷 4-20

視 察 日 令和6年3月27日（水）15:20～16:30

視察内容 四谷ひろばの取組内容について

視察目的 2008年、廃校になった新宿区四谷第四小学校を地元住民中心のボランティアにより、自主管理、運営を行っている四谷ひろばの取組内容を視察し、本市における今後の廃校跡地利活用や運営方法など小学校跡地利活用政策に参考にする。

出 席 者 四谷ひろば運営協議会 事務局長 田谷 節子 様

四谷ひろばについて

世代を越えた交流の場、地域住民による地域貢献活動の場、地域の文化の発信拠点として、地域協業モデル事業。新宿区から「区立四谷小学校跡地を利用した自主運営を行うひろば事業」の提案を受け、区、地域の方と2年間かけ、検討会や準備委員会と検討を重ね、平成19年10月15日に四谷ひろば運営協議会設立総会を開催し、平成20年4月1日から運営を行なっている。

施設概要

- 地域ひろば／地域住民中心のボランティアによる自主管理運営
- CCAA アートプラザ／NPO 法人市民の芸術活動推進委員会が運営
- 東京おもちゃ美術館／NPO 法人芸術と創造協会が運営

主な事業

- 災害時を想定した三団体による自衛消防訓練
- 農園事業／剪定や草むしり、枯れ葉掃除に協力いただくことを条件に農園の貸し出し
- 施設貸出事業／パソコン教室、卓球教室、リフレッシュ体操など
- 大人のサロン／フラダンス、コーラス、シニア健康体操など
- イベント／四谷ひろばフェス、納涼盆踊り大会、東京おもちゃまつりなど



所感

【平石】

今回、視察の受け入れを担当して下さった田谷事務局長様から地域ボランティアで運営していくために、施設の維持管理、ボランティアの集めなど大変なこと、貴重なお話を伺いあらためて、施設を今後もどのように持続していく難しさを実感しました。そのような中、次のリーダーを育成するために若い世代の方が積極的にイベントなど関わっていることは素晴らしいと思う。本市の廃校した小学校の利活用は廃校になってから行政で考えるという形だが、四谷ひろばのように地域住民が率先して利活用を考え、実践していく事例はとても参考になった。

【吉田】

「四谷ひろば」は、新宿区から区立四谷第四小学校跡地を利用した地域で自主運営を行うひろば事業です。本年16目を迎えます。NPO東京おもちゃひろば、NPO CCAAアートプラザと三団体が協働で運営している施設です。

子どもから大人までみんなが集えるひろばを目指しています。地域で考え、地域でつくる 地域協働モデル事業としてスタートしております。地域住民中心のボランティアなどにより、自主管理自主運営される「地域ひろば」では、「避難所機能」「選挙開場」「地域の各種イベント会場」としての役割を持ち、様々な事業を行っています。施設管理や清掃等、日々の維持も住民の方と利用団体の協力を得て成り立っています。このような地域住民の理解と協力を得て行う事業の運営を行うには、熱き思いを持つリーダーシップの方が必要であり、そこを引き継ぐ人材の確保が必要であることを学ぶとともに、廃校の新しい利用方法について学び本市としても参考になるものと思いました。

【目黒】

「四谷ひろば」は旧四谷第四小学校・幼稚園の跡地活用として地域が主体となり、自主管理自主運営を行っております。昨年で開館15周年を迎え、現在は地域ボランティアの自主管理自主運営の「地域ひろば」、NPO 法人市民の芸術活動推進委員会が運営する「CCAA アートプラザ」、認定NPO 法人芸術と遊び創造協会が運営する「東京おもちゃ美術館」の3団体が、協働で運営している施設です。

施設全般の説明は事務局長の田谷様から伺う事が出来ました。小学校の廃校から「四谷ひろば」の開設。そして現在に至るまでの試行錯誤はとても為になる貴重なお話でした。都心ならではの近隣への配慮については、土浦市の比ではないと思いました。また近くに住宅地や寺があり、坂が多い地域で複合施設を運営するのは、民間でも難しいのではないかと思います。

ました。地域愛に溢れた、地元の方々だからこそその成功事例ではないかと思います。
廃校になる小学校を保存させるところから関わってきて、複合施設として蘇らせた田谷事務局長のリーダーシップの心構えをはじめ、廃校の利活用、子育て施設や地域交流施設の運営等土浦市でも参考になるヒントを沢山聞く事が出来ました。

【根本】

「四谷ひろば」は旧四谷第四小学校・幼稚園の跡地活用として地域が主体となり、自主管理自主運営を行っております。昨年で開館 15 周年を迎え、現在は地域ボランティアの自主管理自主運営の「地域ひろば」、NPO 法人市民の芸術活動推進委員会が運営する「CCAA アートプラザ」、認定 NPO 法人芸術と遊び創造協会が運営する「東京おもちゃ美術館」の 3 団体が、協働で運営している施設です。

施設全般の説明は事務局長の田谷様から伺う事が出来ました。小学校の廃校から「四谷ひろば」の開設。そして現在に至るまでの試行錯誤はとても為になる貴重なお話しでした。都心ならではの近隣への配慮については、土浦市の比ではないと思いました。また近くに住宅地や寺があり、坂が多い地域で複合施設を運営するのは、民間でも難しいのではないかと思います。地域愛に溢れた、地元の方々だからこそその成功事例ではないかと思います。

廃校になる小学校を保存させるところから関わってきて、複合施設として蘇らせた田谷事務局長のリーダーシップの心構えをはじめ、廃校の利活用、子育て施設や地域交流施設の運営等土浦市でも参考になるヒントを沢山聞く事が出来ました。